

A六 祖霊殿合祀

これの○○分教会の祖霊殿に只今厳かにお鎮まり下さいました当教会役員故○○○大人之霊並びに教人故△△△△大人之霊の御前に天理教○○分教会長○○○慎んで申し上げます

あわれ○○○大人は去る三月七日齡九十歳という長命ながらまた△△△△大人には去る八月七日齡七十五歳をもって現身をかくされたことはやはり痛ましく淋しい限りでございます

さはあれ人間というは身の内神のかしものかりものなれば生きるも出直すも親神様の妙なる御支配でありむしろなってくる一切は大難どころか小難であり尚それ以上にあとに続く一同を救きたい上からの親心 深い思召しの現れとお教え頂いておりますから 徒に歎き悲しむというよりも 本当は御礼申し上げるべきものと 一同これらの成人を期し お二方のご生前を改めて偲ばせて頂いております

○○○大人には創設以来陰になって教会を支え 三代会長出直し後は役員として 後見人として当教会の力となってお勤め下さいました△△△△大人には前会長の路傍講演でのにをいがけ第一号として天理の御教えとの縁を得 昭和六十年三月二十五日おぢばにお引き寄せいただき初席を運び 教祖百年祭の最中昭和六十一年二月一日おさづけの理をいただかれました その後尚一層教理を得たいとの思いから 修養科へ入学 任命講習も受講され教人の登録もすまされました

こゝに種々の味物を御前に供え 親しき人々が心を籠めて伏し拝む状を心よくお受け取り下さいまして 残されました家族親族はもとより当教会につながる道の子供達の先々に 更に陽気ぐらしの実が見えて参りますよう 併せてお二方の来世には よふぼくとしてより以上の御活躍と御多幸の人生を歩まれますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます